

岩手県知事 達 増 拓 也 様

対面通行を解消し安全安心な走行環境を！

秋田自動車道北上JCT・大曲IC間
4車線化促進要望書

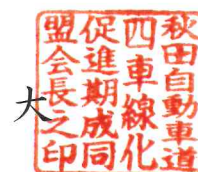


R5.9.22撮影 山内トンネル西坑口 工事現場

令和5年11月14日

秋田自動車道四車線化促進期成同盟会

会長 横手市長 高橋



秋田自動車道「北上JCT～大曲IC」間における 全線4車線化の早期実現について

当地域の安全安心な生活と経済活動の基盤である秋田自動車道への期待、重要物流道路としての重要性は日を追うごとに高くなっております。沿線地域におけるより一層の経済発展と、交通の確保による生活の安全・安心のために、一刻も早い全線4車線化を望みます。

1 秋田自動車道の果たしてきた役割と現況

秋田自動車道は、平成3年7月の横手IC～秋田南IC間の開通以降、秋田県の産業、経済の活性化や文化の振興を図る上での基礎的な社会基盤として、かつ秋田県と岩手県、太平洋側を高速で結ぶ重要路線として利用されており、圏域住民にとっては年間を通して安全・安心な生活を送るために欠かせない路線となっております。

また、東北縦貫自動車道とも直結し、平成23年に発生した東日本大震災時は、太平洋側被災地支援のための秋田港を介した緊急支援ルートとして機能するなど非常に大きな役割を果たし、大変重要な路線として再認識されました。

更に、主要な幹線道路である国道107号においては平成27年3月29日には土砂崩落が発生、令和3年5月1日には宮城県沖を震源とする地震の影響と思われる地滑りが発生し、いずれも西和賀町錦秋湖岸において全面通行止めとなっております。令和4年11月に迂回路となる仮橋が供用開始されるまでの長期通行止めにあたり、当該区間の秋田自動車道は唯一の代替路線として無料で利用されました。

秋田自動車道はこのように重要な役割を果たしているにもかかわらず、特に北上JCT～大曲IC間 約72kmのほとんどが暫定2車線の片側1車線による対面通行という現状であり、冬季積雪期間における安全性や時間信頼性の確保、ネットワークの代替性確保、更には秋田、岩手両県の産業振興や企業誘致、観光振興の観点も含めて、経済活動に大きな課題が顕在化している状況にあります。

2 これまでの整備経過

平成31年3月9日、東北横断自動車道釜石秋田線が30年余りの歳月を経て全線開通し、重要港湾である日本海側の秋田港と太平洋側の釜石港が高速道路ネットワークで繋がるという大きな節目を迎えました。

また、同年3月に秋田自動車道 湯田IC～横手IC間の約7.7km

が事業化されたことを皮切りに、「高速道路における安全・安心基本計画」に基づき、これまで北上JCT～大曲IC間の暫定2車線区間約42kmのうち、27.9kmが事業化されました。残す暫定2車線区間は14.1kmとなっております。秋田自動車道の4車線化整備が大きく前進いたしましたことに改めて感謝申し上げます。

3 4車線化整備により見込まれる地域への効果と期待

現在、秋田自動車道沿線地域には新たな企業立地や工場の増設が続いております。とりわけ横手市においては自動車関連企業の工場の立地が集中しており、企業間の連携した取り組みも生まれております。また、令和元年8月に開通した横手北スマートICの効果もあり、既存企業における物流環境も大きく改善しております。

当地域としては企業立地による直接的な効果はもちろん、既存企業や地域におけるストック効果にも大きな期待を寄せており、効果を最大化させるための様々な取り組みも推進しております。

新型コロナウイルスによりその脆弱性が明らかとなった一極集中の是正と、地方創生、地域活性化のためには4車線化整備による社会基盤強化が急務であり、最重要課題であります。

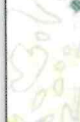
4 要望

つきましては、地域経済活動の一層の発展と拡大、そして安全で安心な地域生活の実現のため、「高速道路における安全・安心基本計画」に掲げる優先整備区間である秋田自動車道「北上JCT～大曲IC」間の「時間信頼性確保」「事故防止」「ネットワークの代替性確保」実現のため、以下を強く要望いたします。

- (1) 現在事業中の「湯田IC～横手IC」間、「北上西IC～湯田IC」間における4車線化等工事の早期完成
- (2) 「北上JCT～大曲IC」における約42kmの対面通行区間のうち4車線化整備未事業化区間 約14kmの早期事業化
- (3) 高速道路の良好なインフラを持続的に利用するため、改正道路整備特別措置法等に基づく料金徴収期間の延長による財源を活用し、適切な維持管理と更新事業、暫定2車線区間の4車線化や耐震補強等の機能強化を着実に進めること



秋田県



秋田自動車道4車線化 要望箇所図



**北上JCT~大曲IC間
(約72km)の
早期の全線4車線化を要望!**

「高速道路における安全・安心基本計画」
(R元.9.10)における優先整備区間



線名	区間		優先整備区間	暫定2車線のIC間延長 [km]	対面通行区間延長 [km]	①時間信頼性の確保の観点			②事故防止の観点		③ネットワークの代替性確保の観点				
	自	至				25%以上速度低下区間延長 ※通量5,000台/日未満除く	渋滞回数	優先整備区間(時間信頼性の課題有)同士に挟まれた区間で30km以内の区間等	死傷事故件数	死傷事故率	運用率(年間通行止め時間) ※工事除く	積雪地かつ最急勾配4%より大きい	特定更新等	並行現道に課題	
田道	北上JCT	北上西	○	9	7	○	B	C	○	C	C	C	D	D	D
田道	北上西	湯田	○	22	18	○	A	B	○	A	B	B	D	B	A
田道	湯田	横手	○	20	9	○	A	B	○	A	B	B	D	B	A
田道	横手	大曲	○	21	8	○	C	C	○	B	C	B	D	D	D

秋田自動車道「北上JCT～大曲IC」間の4車線化整備の必要性(1/6)

県境部の課題

時間信頼性の確保の観点(速度低下)

○暫定2車線区間である秋田・岩手県境部では、**25%を超える速度低下率**

秋田・岩手県境部で、速度低下率が25%以上

暫定2車線区間(有料)における速度低下の主な課題箇所

平成30年7月27日
社会資本整備審議会
道路分科会
第31回国土幹線道路部会
資料より引用
※図面はR5現在に更新



主な課題箇所
(有料区間のみ旗揚げ)

**速度低下率
25%以上の主な区間**

※四車線事業中区間を除く

凡例	
供用中	6車線 4車線 2車線
事業中
調査中	□□□□□□
令和5年度新規開通区間

4車線化による「時間信頼性の確保」「事故防止」対策が必要

ネットワークの代替性確保

○暫定2車線区間である秋田・岩手県境部では、**ネットワークの代替性確保が課題**

秋田・岩手県境部で並行する現道(国道107号)に課題

暫定2車線区間(有料)におけるリダンダンシーの主な課題箇所

平成30年7月27日
社会資本整備審議会
道路分科会
第31回国土幹線道路部会
資料より引用
※図面はR5現在に更新



主な課題箇所
(有料区間のみ旗揚げ)

並行現道に課題

※四車線事業中区間を除く

凡例	
供用中	6車線 4車線 2車線
事業中
調査中	□□□□□□
令和5年度新規開通区間

並行する脆弱な国道107号

○令和3年5月1日に発生した宮城県沖を震源とする地震の影響等により、**西和賀町の錦秋湖岸の国道107号において地すべりが発生し、令和4年11月30日まで577日の長期間全面通行止めが発生**

○平成27年3月29日にも土砂崩落発生により、**西和賀町の国道107号「道の駅錦秋湖」付近で、11月28日まで244日の長期間全面通行止めが発生**

北上西IC～湯田ICの通行無料措置により、国道107号の代替機能を発揮

令和3年発生 国道107号路面変状(地滑り)状況写真



4車線化による「ネットワークの代替性確保」が必要

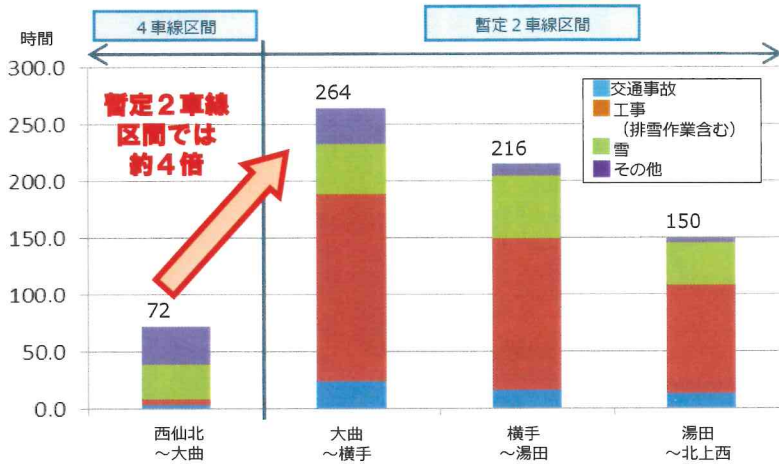
秋田自動車道「北上JCT～大曲IC」間の4車線化整備の必要性(2/6)

冬期間の課題

○暫定2車線区間のうち、「北上西IC～湯田IC」間で全面通行止めが発生

○暫定2車線区間では、4車線区間と比較して全面通行止め時間が4倍

大雪であった平成29年度における冬期間の区間別 全面通行止め時間(11月～3月)



○令和2年12月16日、大雪により「北上西IC～大曲IC」間で全面通行止め約70台が高速道路上に滞留し、並行する国道107号でも車両スタックが発生【通行止め発生時間】

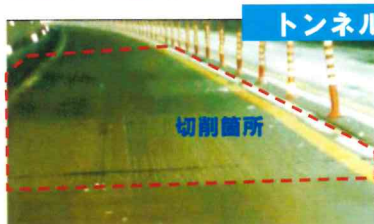
- ・北上西IC～湯田IC： 1:50～16:15 (14時間25分)
- ・湯田IC～横手IC： 7:30～17:00 (9時間30分)

4車線化による冬期間の「時間信頼性の確保」・「事故防止」が必要

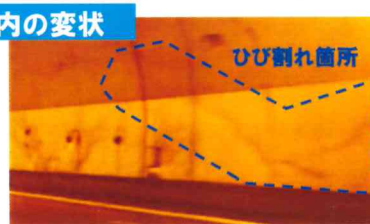
「湯田IC～横手IC」間の変状箇所

○平成23年6月24日には、盛土法面が崩壊し、家屋に土砂が流出

○「湯田IC～横手IC」間の各トンネルでは、路面の隆起やひび割れが発生



隆起による走行性悪化の対策として、路面切削が実施されている



側壁部にひび割れが発生



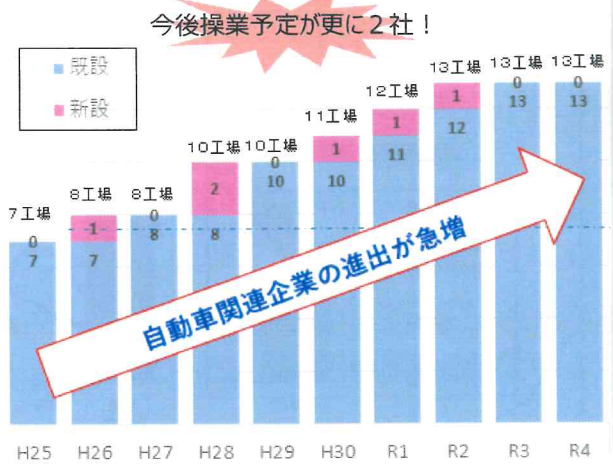
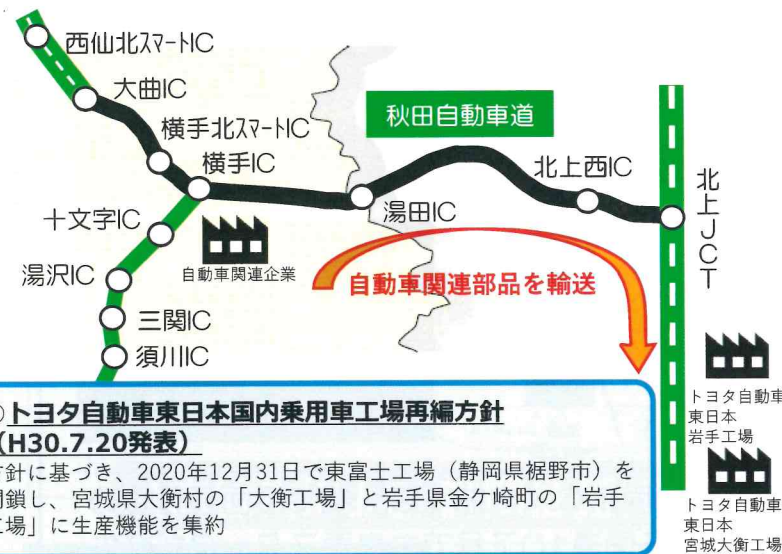
盛土法面崩壊の復旧としてカゴ砕工が実施されている

交通を確保しながら補修工事を実施するには4車線化が必要

秋田自動車道「北上JCT～大曲IC」間の4車線化整備の必要性(3/6)

横手市に集積が進む自動車関連産業

- 秋田自動車道を活かした輸送効率化により、横手市では自動車関連企業の進出が急増
- 企業が求める「時間信頼性を確保」するためにも、**暫定2車線区間の4車線化が急務**



自動車関連工場の進出が進む横手第二工業団地

○横手第二工業団地における近年の自動車関連企業の進出状況

- ・大橋鉄工秋田株式会社 ※1次サプライヤー (H29.2.23竣工、R3.12工場拡張)
 主な製造部品：パーキングロード
- ・秋田化学工業株式会社 (H31.3.9竣工)
 県内初となる「防さび電着塗装工場」を建設
- ・株式会社アスター (R1.6.11竣工)
 主な製造部品：高効率モーターコイル
- ・オロテックス秋田(株) [イイダ産業株式会社] (R2.5.29竣工) ※1次サプライヤー
 主な製造部品：防音材、制振材
- ・イリソ電子工業株式会社 (R7.4 竣工予定) ※電気自動車関連
 主な製造部品：コネクタ
- ・株式会社東海理化 (R7.1 竣工予定) ※1次サプライヤー
 主な製造部品：ミラー、シフトレバー

その他の企業：大橋鉄工秋田(株) [H29.2 竣工、R3.12 拡張]、秋田化学工業(株) (株)アスター [R1.6 竣工]、イイダ産業(株) [オロテックス秋田(株)] [R2.5 竣工]、(株)東海理化 [R7.1 竣工予定]、イリソ電子工業(株) [R7.4 竣工予定] ※電気自動車関連

秋田自動車道「北上JCT～大曲IC」間の4車線化整備の必要性(4/6)

東北初 横手市に進出

新工場、25年1月稼働予定

トヨタ系部品メーカー
東海理化(愛知)

東証プライム上場のトヨタ自動車系部品メーカー・東海理化(愛知県大口町)は2日、横手市の県横手第2工業団地に進出すると発表した。東北への進出は初。現地法人を設立して工場を新設し、東北での事業拡大を狙う。2023年10月着工、25年1月の稼働を予定している。

長は「秋田は産業の強化に對する思いが特に強いと感じ、進出を決めた。人材採用についてもサポートしてくれるとのこと、心強い」と話した。

▲秋田魁新報 (R4.9.3)

ミラー、シフトレバー製造

工場は鉄骨平屋建てで延べ床面積6800平方メートル。主にトヨタ自動車東日本(宮城県大衡村)向けに自動車のミラーとシフトレバーを製造する「カーボンニュートラル」を達成できる工場とする。総投資額は22億円。操業を想定している。当初は70人体制でスタートし、27年度には70人程度を、28年度には120人程度の雇用を、協定締結式で「ニータ裕美社」が説明する。



横手市への進出について説明するニータ裕美社社長

工業団地整備など柱 一般会計537億円、5.2%増

▲秋田魁新報 (R4.2.19)

横手市 新年度予算案

大橋鉄工秋田(横手市)

トヨタ車部品 新規受注

工場面積、2倍に拡張へ

トヨタグループに部品を供給する大橋鉄工秋田(横手市柳田)は新たな自動車部品の受注獲得に伴い、生産ラインを新設し、自社工場の面積を約2倍に拡張する。来月着工し、来年5月にも稼働させる予定。10人の新規雇用を計画している。総事業費は約8億円。

新たに10人雇用も計画

大橋鉄工秋田はこれまで、ライチチューブは同社が生産する車のボンネットを開けた時に手掛ける5種類目の車載部品は従来100人規模の会社に成長させ、秋田のものづくりに貢献していきたいとしている。

(佐藤博将)

▲秋田魁新報 (R3.7.27)



大橋鉄工秋田が新たに生産する自動車部品「ライチチューブ」。(大橋鉄工秋田提供)

新たに生産するのは「エアライチチューブ」と呼ばれる長さ10センチほどの鉄製部品。自動車の無段変速機(CVT)内部のベアリングなどにオイルを供給するために使われる。トヨタ自動車のノアやヴォクシー、C-HR、カムリなどのCVT車7車種に搭載される予定。2024年度までに1億円の売り上げを見込み、月9万本程度の生産を目指す。

横手に工場、25年稼働

EV普及見据え、雇用200人

東証一部上場の大手コネクタメーカー・イリソ電子工業(横浜市、鈴木社長)は2日、横手市の県横手第2工業団地に新工場を建設すると発表した。電気自動車(EV)の普及を見据えた新規投資で総事業費は約50億円。来年4月に着工し、2025年4月の稼働を見込む。地元の人材を積極的に採用し、稼働後5年以内に200人の雇用を目指す。



協賛者手にする(左から)高橋市長、鈴木社長、佐竹知事

▲秋田魁新報 (R4.3.3)

秋田自動車道「北上JCT～大曲IC」間の4車線化整備の必要性(5/6)

自動車部品 秋田自動車道を介した供給体制構築が本格化

○トヨタ自動車東日本（宮城県大衡村）が生産拠点を設ける東北地方に部品生産拠点を置こうとする動き。
○秋田県南部ではその動きがより一層活発化しており、確実な自動車部品供給のためには

暫定2車線区間の全線4車線化が急務

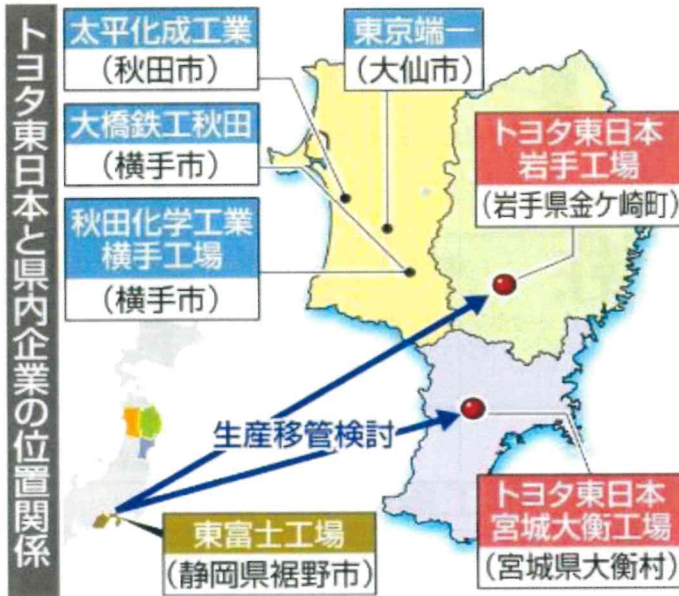
自動車部品分野

県内への立地や大型投資相次ぐ

自動車関連の主な誘致企業(2015年度以降)

誘致認定年度	事業所名	所在地	本社
2015	睦特殊金属工業 焼結事業部 秋田工場	横手市	東京都
	睦特殊金属工業 樹脂事業部 秋田第二工場	横手市	東京都
	ヌイテックコーポレーション 横手事業所	横手市	東京都
	大橋鉄工(大橋鉄工秋田)	横手市	愛知県
	山口電機工業 秋田第二工場	鹿角市	東京都
16	ジェイテクト (ジェイテクトIT開発センター秋田)	秋田市	愛知県
19	イイダ産業(オロテックス秋田) 河村化工 秋田開発センター	横手市 秋田市	愛知県 大阪府
21	イリソ電子工業	横手市	横浜市
22	東海理化	横手市	愛知県

※かっこ内は現地会社の名称。□はトヨタの1次サプライヤー



▲秋田魁新報 (R1.6.29)

▲秋田魁新報 (R4.9.3)

秋田自動車道の経済波及効果は秋田県全体へ

本県分、1991年から2021年まで

秋田道の経済効果5200億

▲秋田魁新報 (R5.2.4)



大曲企業団地 大仙市ではIC近くに
※大曲ICまで10分 **新たな企業団地を造成**

第1期：令和4年4月より分譲開始
第2期：令和5年8月より造成開始

- 秋田自動車道を活かした輸送効率化により、東北自動車道から離れた秋田県内部へも企業の進出や観光流入人口が増加
- 東北自動車道へのアクセスに加え、日本海側、太平洋側へもアクセスが容易に
- 秋田県全体への呼び込み効果を上げるため **暫定2車線区間の全線4車線化が急務**

時間短縮、生産性向上

ネクスコ東秋田経済研究所試算
ネクスコ東日本東北支社(仙台)と秋田経済研究所(秋田市)は、2021年の秋田自動車道開通から2021年までの本県への経済波及効果額が5200億円になるとの試算をまとめた。ネクスコ東北支社は「高速道整備により、移動時間が短縮することで企業の生産性が向上し、経済効果をもたらしたと推定される」としている。(本多恒順)

秋田港
重点・重要港湾

大陸で
主
【秋田】
東京
秋田
株式
オロ
【イ

秋田自動車道「北上JCT～大曲IC」間の4車線化整備の必要性(6/6)

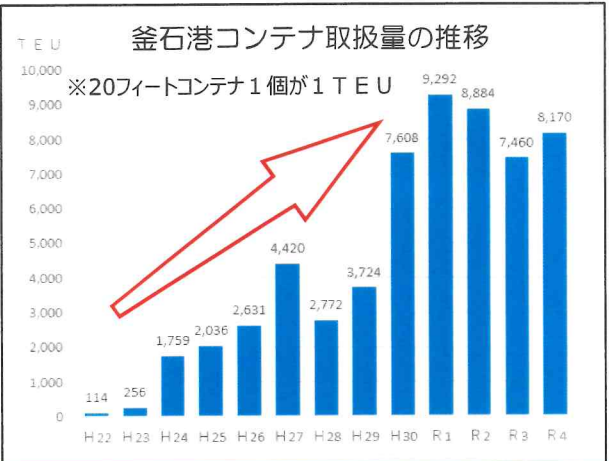
東北横断自動車道釜石秋田線全通 (H31.3) により「高速に繋がるインフラ拠点」と経済効果

- 東西の重要港湾を結び、中央部で東北自動車道と接続する重要路線
- 沿線には自動車産業をはじめとした多くの企業が立地しており、高速道路網を利用
- 近年激甚化・頻発化する災害から速やかに復旧・復興するためには道路ネットワークの強化が不可欠。早急な**暫定2車線区間の全線4車線化が必要**

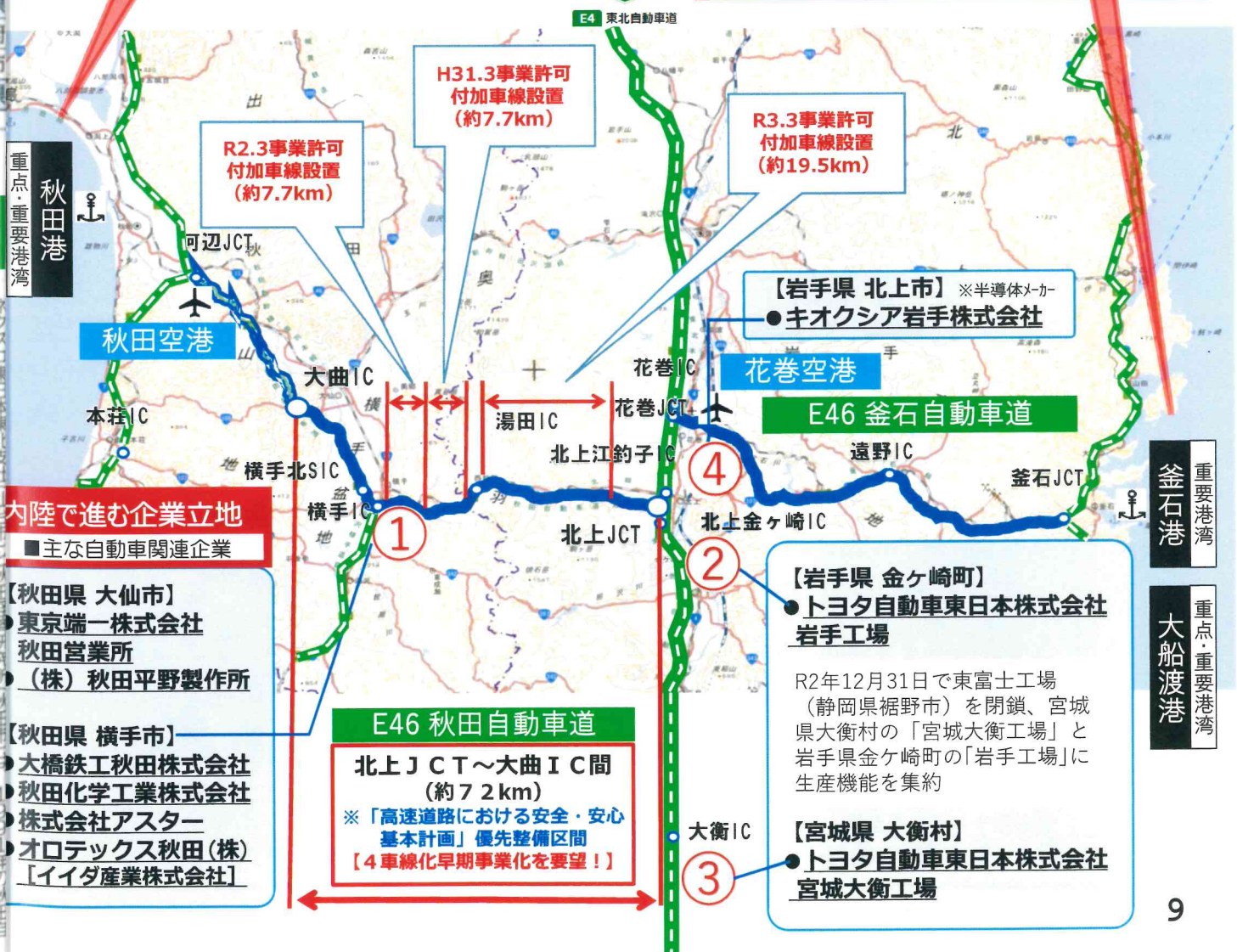


▲国土交通省秋田港湾事務所ホームページより

日本海から世界へのゲートウェイを担う秋田港



釜石港ではコンテナ取扱量が飛躍的に増加



秋田自動車道四車線化促進期成同盟会 会員名簿

会 長 横手市長 たか高 はし橋 だい大

副会長 秋田市長 ほ穂 づみ積 もとむ志

副会長 北上市長 やえがし八重樫 ひろ浩 ふみ文

監 事 大仙市長 おい老 まつ松 ひろ博 ゆき行

監 事 西和賀町長 ない内 き記 かず和 ひこ彦

会 員 由利本荘市長 みなと湊 たか貴 のぶ信

会 員 公益社団法人秋田県トラック協会
 会長 あか赤 がみ上 しん信 や弥

会 員 公益社団法人岩手県トラック協会
 会長 たか高 はし橋 よし嘉 のぶ信

秋田自動車道四車線化促進期成同盟会 名 刺 帳

組織・目的

本会は、秋田自動車道の四車線化を促進し対面通行を解消することにより、冬季間でも安全・安心な走行を可能とし地域の発展に資することを目的に、昭和55年5月22日に設立し、現在、秋田市、横手市、大仙市、北上市、西和賀町、由利本荘市の首長及び公益社団法人秋田県トラック協会長、公益社団法人岩手県トラック協会長をもって構成されております。



会 長
横手市長
高 橋 大



副会長
秋田市長
穂 積 志



副会長
北上市長
八重樫 浩 文



監 事
大仙市長
老 松 博 行



監 事
西和賀町長
内 記 和 彦



会 員
由利本荘市長
湊 貴 信



会 員
公益社団法人
秋田県トラック協会長
赤 上 信 弥



会 員
公益社団法人
岩手県トラック協会長
高 橋 嘉 信